

全佛通信

七月号附録
 発行所
 財団法人
 全日本仏教会
 東京都中央区築地
 三ノ一(本願寺町)
 電話(03)二九六九
 〇三三三
 振替 東京三六〇
 〇〇
 発行人 阿部竜伝
 編集者 伊東堅純
 印刷所 ルビニ社

われわれは挙つて 仏教政治同盟に 参加しよう

これは第十二回全日本仏教徒会議
静岡大会に於て結集した雄叫びである

第十二回仏教徒会議は去る六月一、二日静岡市駿府会館において八千名を突破する盛況裡に開催された。これに先き立って創価学会では三十名の衆議院進出の発表もあったし、世間では宗教と政治の問題がさかんに論じられ、一方仏教界としては、その他に憲法第二章と宗教活動の隘路問題から法制的政治的権益問題等も山積し政治に無関心であつてはならない情勢ともなつていたので大会の会議内容も自然これらの問題にふれていくことが注目される。

あるから我々は正法を顕証しつ彼等を粉碎すべきであると呼び、拍手を浴びた。

次いで、仏教政治同盟提唱者の生みの親の一人狩野獲麟氏から「精神復興、仏教興隆運動を毎月八日と定め全国一斉に起そう」との案が出され、現代における最大の不幸は国民の精神的空虚で無理想無原則な危機に陥入っていることである。政治家に信念がないことである。我々は仏教徒の立場から全国一斉に精神の救国運動を起そうというのであった。

具体的には毎月八日を仏教徒の日と定め、全国八万の寺院、二十万の僧と数千万の檀信徒の協力を願ひ、この日だけは梵鐘を鳴らし仏旗を掲げポスターを貼り、都市には仏教聖語をアドバルーン等で標示し、宣伝カー、レコード、映画、紙芝居、幻燈等を使用し、講演、辻説法、童話等で現代啓蒙に

役立つ教化活動を行い、又は地域の人々の集会、話し合いの集りをもつてカウンセリングから社会悪の対策と政治浄化の問題、理想選挙の推進等話し合い、その集合をして精神運動と政治浄化運動のため組織活動の足場とした旨を訴え、全員異議なく採択された。

更に多年NHKにおられた摩尼清之氏は「われわれは挙つて仏教政治同盟に参加しよう」と提案、現代の如き責任もなければ信念もない政治家にわれわれは政治を委せておれない。彼等は党利党略のため国会を麻痺させ国民をさむき汚職を誘発しそのため底知れぬ社会悪と非行少年を出している。われわれは仏教の真理を高く掲げて政治の中にそれを生かし、これを全国的組織活動に持つて行くこととするのが仏教政治同盟である。われわれは挙つて参加しようと呼び、大拍手裡に採択となつた。

仏教者の政治的任務

宗教家をもつて任ずる寺院僧侶は、救国警世精神復興に総決起の秋である。敢えて政治家になれと錯覚してはならない。仏教者が特に国民の九割を占めるわが国にとつては、八万の寺院を道場に持つて三十万の僧侶の政治に対する重大関心を高めることである。

政党的な在り方を厳正に批判し、国民の福祉生活、文化水準の高度化に對して政治の貧困を衝くと共に、政治家の宗教心培養につとめる。政治の腐敗、為政者の怠慢を正しい姿勢に直すための政治的行動を起し、実力ある圧力団体に よつて良い政治の行なわれる監視機関の役割を果たすことが、まさしく強力な国民組織の基盤に立つて宗教団体の精神運動に外ならない。

仏教と政治

現代の政治は排仏政治で、ピタミン欠乏による脚気症状の現象を露呈している。暴力団の白昼市街戦、少年非行の激化、汚職行政のびん乱等々みな排仏政治の所産である。

民主政治は多数決原理が立て前である。しかし多数が正しいという理論はいまだかつて論証されたためしが無い。西欧社会ではこの矛盾を聖書が解決している。民主政治における政治と宗教の出会いの次元を知らずして、古い日本の政治概念の頭で、宗教と政治の関係を考へるならそれはナンセンス

である。

政治はまた対立、分化という本来的矛盾をふんまえ武力(暴力)を背景として成立している権力構造である。ひと度この権力構造が暴走をはじめると禪も念仏もふっ飛んでしまうことは歴史の示すところである。

この政治の必要悪といわれる矛盾性、暴力性を宗教において他に何が救済できるであろうか。仏心ある選良を積極的に支援することにも、仏心によつて政治の是非を弁別する運動を展開する以外に日本の政治を正す道はない。

仏教は云わば栄養剤となり血清剤となつて政治に浸透することが要請されている。仏教界がこの国民の要請を認知しないところに新興宗教、創価学会等が激発する素因がある。日本仏教は今や個我的極楽三昧のみに沈潜することをやめて、正しい政治の土つくりという利他行に目を開くべきである。

(総務 摩尼清之)

お知らせ 仏教政治同盟

東京都港区芝公園十九号地一番
 振替 東京 三二一四五番
 六月十日より右記に移転いたしました。

(委員長 栗本俊道)

仏教政治同盟とは

経済成長と科学技術の発達によって現代日本の表面は、きわめて太平ムードの感はあるけれども、その反対の精神面はおそろへべき不安と危機にさらされている。

政治も経済も社会も家庭も心の廻りどころを失って、互いに不信と対立と無責任と遊惰と失望と虚無に陥入って青少年は生きる道を失っている。

われわれ仏教徒はこの我が国の亡国の現象を坐視するにしのびない。いまこそ仏教不滅の真理を高く掲げ、仏教による人間愛を政治の中に、また教育の中に生活の中に打出してゆきたい。したがってこれは精神運動であると共に政治運動である。これを全日本数千万の仏教徒に呼びかけ組織体としての活動を盛りあげてゆきたいのがわれわれの念願である。

同盟信条

- 一、われらは仏教の真理を高く掲げて政治浄化と祖国愛を強調する。
- 二、われらは仏教の正道思想によって階級斗争を是正し人間愛を宣布する。
- 三、われらは全国八万の寺院五千万僧俗の組織活動の完遂を期する。

活動目標

- 一、仏教思想を政治と教育の中に浸透せしめるために有効適切な仏教運動を展開する。
- 一、時事問題社会問題政治問題については仏教の理念に則り公正

なる批判を加えその都度アピールを声明する。

- 一、創価学会対策と既成仏教々団の革新を促す。
- 一、全国的組織活動を完遂するために中央地方ともに連絡集会を行ない講師の派遣を行なう。
- 一、世論を尊重し、とくに会員の希望意見等は機関紙に取り上げると共に仏教界の政治的解決を策する諸問題に対処する。
- 一、国政および選挙の公明に關しては理想的、合法的積極的活動を行ない仏教精神の徹底を期する。

- 一、宗教軽視の憲法条項の改正を要望し宗教々育の隘路打開に努力し日本民族精神の復興を期する。
- 一、かくれたる仏教徒の社会活動、社会美談等を重要資料として機関紙上に発表する。

会員規定

- 一、本同盟の趣旨に賛成者は仏教僧俗を問わず入会が出来る。
- 二、普通会員会費は年額千円とし正会員は年額五千円とす。(学生、青年二十五才迄は半額とす)
- 三、団体加入会費は五万円以上とす。
- 四、会員には機関紙無料送付本同盟発行印刷物は二割引とす。
- 五、会員五名以上百名迄勧誘者は支部長とし百名以上募集者は府県地区代表とす。
- 六、中央、地方連絡のため地方通

信を寄せる人は本同盟地方記者の待遇をする。

七、本部又は各地区に集会、研修講演会等行なうときは加入会員には優先連絡する。

八、会員には会員証を渡す。

顧問 (順不同)

- 松本徳明 文学博士 大正大学理事長
- 清水谷恭順 文博、浅草寺貫主
- 箕輪英章 東本願寺宗務総長
- 太田淳昭 西本願寺宗務総長
- 金剛秀一 曹洞宗々務総長
- 小林大巖 浄土宗々務総長
- 平林育高 真言宗豊山派宗務総長
- 上野頼榮 同 智山派宗務総長
- 高峯秀海 真言宗高野山宗務総長
- 清田寂坦 天台宗々務総長
- 金子弁浄 日蓮宗々務総長
- 宮裡頭秀 妙心寺宗務総長
- 阿部竜伝 全日本仏教会総務局長
- 伊藤道機 早稲田大学教授 (各界代表交渉中)

役員

- 委員長 栗本俊道
- 実務委員長 広瀬健一
- 総務会長 狩野獲麟
- 総務教宣局長 岡本薫
- 総務組織局長 鹿内敬之助
- 総務財務局長 摩尼清之
- 総務 山本洋一
- 総務 堤敏郎
- 総務 斎藤精鉅

仏政同盟の歩み

▼同盟結成式昭和三十五年六月十一日、丸の内工業クラブにて(二百人)▼仏教と政治論文発表、同年七月、松本徳明、吉田敬直(シリーズ)大野信三中外日報、狩野獲麟読売新聞。同年七月三十日早稲田大隈会館に於て、更に九月二日小田原最乗寺に於て活動方針協議。▼同年十一月公明選挙に協力街頭進出(有楽町、渋谷、浅草)▼機関紙発行(仏政同盟報)十二月二十日▼京都五条に於て関西方面有志と発展策協議 三十六年三月。▼東南アジア民生安定問題につき政府に建議文を提出。六月十四日▼原水爆平和問題につき各新聞に声明書発表(同年七月二十日)▼宗教法人、憲法問題、宗教々育日教組問題につき荒木文相の話をきく(九月十三日)▼仏教関係園会議員懇談会(十月二十六日)▼創価学会、農地問題、E.E.C問題研究会(三十七年一月十二日)中略▼全仏大会(神奈川、大阪、福岡、静岡大会に参加提案。▼精神復興、創価学会対策を兼ねて再組織、積極活動開始(三十九年四月)以下省略

加入申込書

氏名	住所	職業	希望会員名	宗教	推薦員名	氏名	日付	備考

仏教政治同盟御中

長野県仏 高坂空来
天上天下唯我独尊を喧伝しよう
と主張し採択をみた。

二十二号 今後の仏教徒大会の
方法如何。静岡県仏 友田達明

一、決議事項は実行に移せよ。
二、静岡市より先に名古屋大会
がなせ実施できなかつたか。

三、全仏は三大宗派のタライ廻
しのみに終らず小宗派でも実
力者を加えよ。

四、どの大会でも副信徒部会を
必ず加えよ。

五、大会議案と開催地は一日も
早く知らせて欲しい。
と五項目のべ参加者、全仏との
同感を得て満場採択決定をみた。

第二部会

第二部会は国際的問題が中心で
合計九議案が付託審議された。

一、日時 六月一日午後一時十
五分より同五時五分
一、場所 静岡市産業会館会議
室

一、参会者 約三百五十名
一、部会長 佐瀬淳光、間野敬重
小野塚潤澄、赤松常
子

一、議 運 石井真峯、小原良碩
宮形湛全、角田玄英
野上達雄、加藤玉英
神野真一、椎谷健

一、助言者 村野宣忠、木村智広
阿部総務局長、中山
国際局長、伊東総務
部長、柳国際部長、
鎌田国際主事、福井
総務主事、森谷総務
主事、青柳総務書記

一、本部 佐瀬淳光師が部会長席につき議
案第一号から上程された。

第一号 印度大菩提会のダルマ
パーラ生誕百年記念事業に
協力しよう
梵人会 吉田 昭炳

提案者梵人会の村沢義二郎氏病
欠のため、代って同会吉田氏が説
明。セイロン及びインド仏教復興
に七十年の生命を捧げたセイロン
人ダルマパーラ生誕百年記念事業
に協力するため、全仏が中心とな
ってその責任のもとに、一千五百
万円を募財を十一月までに達成し
たい、と説明、全仏当局よりす
でに募金態勢を整え、近々この運動
を実施にうつす所存であると答弁
し、異議なく説明通り意見の一致
を見た。

第二号 仏教徒の平和のための
国際連帯を強化しよう
近代仏研 壬生 照順

提案者から、仏教精神による平
和の実現に対する提案は、いつの
大会でも出されるが仲々実践が困
難である。仏陀の精神に基づいて
全面核廃実現のため努力したい。
それには世界仏教徒の連帯性を強
めねばならない。昨年の南ベトナム
事件に対する日本仏教徒の協力
はベトナム仏教徒に非常な感謝と
喜びを与えていた。故に次の三
点をこれを実践目標として提言し
たい。即ち①日中兩國仏教師方
の慶賀行事の推進、②朝鮮仏教徒
との交流、③世界宗教者平和会議
への参加。ついで近代仏研松井氏
より東京オリンピックも間近いが
世界中の若人が政治を超えて集う
ものである。故に平和問題も仏教
精神に基づいてイデオロギーを離
れて推進すべきであると提言し、
万場一致、仏陀の精神により積極
的にこれが、実践にあたるべきで

あるとの結論に達した。
第三号 キリスト教と提携して
国際政治の争いに対して忠告
すること。
世界仏教協会 野依秀市

提案者より、世界平和はドイツ
の統合なしでは実現不可能であ
る。今後世界戦争は起りえない。
我々はソ連に対して弱勝である等
と前提して、キリスト教と提携し
て国際政治の争いに忠告しようと
説明。
京都仏青、近代仏研、京都仏教
徒会議等より、提案者の独自の見

いた日本仏教に関する書物には、
案外と曲解して日本仏教について
述べられてあるものが多い。中に
は禅を取扱っているものの、その
ネライはカソリックの宣伝が目的
のものもあるようである。このま
ま行くと、日本仏教の将来は開墾
たるものとなって来る憂いがある
ので、この際、全仏英文ニュース
を発刊して正しい日本仏教紹介に
つとめるべきであると説明、全員
異議なく意見の一致を見、全仏当
局も極力これが実現に努力する由
述べた。

第十号 新しい大乘運動につい
て
石川県仏 松尾 宝作

大乘仏教精神を以て、石川県で
は独自でこの新運動を展開するこ
とが話合われているが、これは全
仏が中心となつて推進した方が効
果的であるとのべ、現代仏教徒の
目標は、①仏教の生活化、②仏教
の国際化、③仏教の正しい実践を
推進することにある。そのために
は資金面の充実が絶対必要である
が、それが実行に最も容易な方法
として「一日一円運動」を提唱し
これを全仏運動として展開されたい
と説明、当局から全仏としても
資金面の充実こそ急務である。提
案者の主旨が全仏教徒に徹底する
ならば、画期的な重大な意味をも
つものと確信すると述べ、全仏と
してもこれが実行に努力したいと
結び、参加者一同の拍手があつて
採択された。

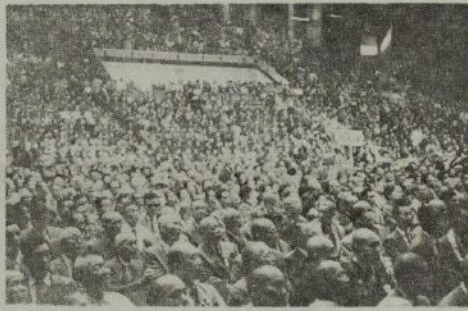
第九、〇〇〇名の参加者)
解が議案の本旨を越えて述べられ
ている。議案の本論にもどつて説
明されたい。とのべため一時議
場は混乱したが、提案者が退場し
たので自然的に審議未了となり結
局廃案となつた。

第四号 全仏英文ニュースを発
行すべし
ヤングリースト社 村野宣忠
外人仏教学者と自負する人の書

なのお岡山県仏清田師から、大乘
小乗という根本的問題が、これら
大乘運動を展開する上に横たわつ
ている。このためには全仏は印度
学仏教学会等の学者グループと極

力連携を保って、個人的にでなく
組織対組織で、こうした根本問題
に対処してゆくべきである。との
要望があり了承された。
第十七号 今秋十一月開催予定
の本第七回世界仏教徒会議に日
本か如何なる議案を提出
すべきか
高野山真言宗 阪口祐瑞

印度で今秋十一月下旬開催予定
の第七回世界仏教徒会議に、次の
議案を提出したいと要望する。即
ち、①WFB組織を強化しよう、
②南北仏教相互理解を深めるため
のある機関設置の件、③欧米仏教
徒に対し、英文による仏教書提供
に関する対策の件、
と説明したが、当局よりWFB
大会開催についての経過説明がな
され、次いで全仏から次のような
議案も、提案者の要望した議案と
共に提出したいと述べた。
即ち、①玄奘三蔵千三百年大祭
をWFBで開催しよう、②各仏教
国が発展していないから、あらゆる
方面に繁栄するための方策を研
究する機関を、WFBに設置しよ
う、③世界各国に対し武装放棄を
提唱しよう。



(駿府会館を一杯にうづめた
九、〇〇〇名の参加者)

なのお岡山県仏清田師から、大乘
小乗という根本的問題が、これら
大乘運動を展開する上に横たわつ
ている。このためには全仏は印度
学仏教学会等の学者グループと極

力連携を保って、個人的にでなく
組織対組織で、こうした根本問題
に対処してゆくべきである。との
要望があり了承された。
第十七号 今秋十一月開催予定
の本第七回世界仏教徒会議に日
本か如何なる議案を提出
すべきか
高野山真言宗 阪口祐瑞

印度で今秋十一月下旬開催予定
の第七回世界仏教徒会議に、次の
議案を提出したいと要望する。即
ち、①WFB組織を強化しよう、
②南北仏教相互理解を深めるため
のある機関設置の件、③欧米仏教
徒に対し、英文による仏教書提供
に関する対策の件、
と説明したが、当局よりWFB
大会開催についての経過説明がな
され、次いで全仏から次のような
議案も、提案者の要望した議案と
共に提出したいと述べた。
即ち、①玄奘三蔵千三百年大祭
をWFBで開催しよう、②各仏教
国が発展していないから、あらゆる
方面に繁栄するための方策を研
究する機関を、WFBに設置しよ
う、③世界各国に対し武装放棄を
提唱しよう。

なのお日本山妙法寺の丸山師より
王舎城、靈鷲山の仏跡を復興しよ
うの議案もつけ加えたいと要望が
あり、夫々万場一致で採択された
第十八号議案 惠慈法師奉賛額
彰について
聖観音宗 徳水 元錫

惠慈法師は日本仏教徒にはあま
り知られていないが、朝鮮から日
本に仏教を招来した人で、日本仏
教界にとっては恩人である。
惠慈法師の精神は聖徳太子に通
じ、和を以て尊しとなすの精神に

なのお日本山妙法寺の丸山師より
王舎城、靈鷲山の仏跡を復興しよ
うの議案もつけ加えたいと要望が
あり、夫々万場一致で採択された
第十八号議案 惠慈法師奉賛額
彰について
聖観音宗 徳水 元錫

なった。いわば聖徳太子にとつても師匠にあたる方である。このように日本仏教界にとつて恩人である惠慈法師を日本仏教徒として顕彰されたいとのべ、参会者一同拍手により採択した。

第十九号 オリピック東京大会に仏教徒は道義昂揚運動を全国的に展開しよう

真宗大谷派 藤原 俊

今回のオリピック大会は国力をあげて行うもので成功裡に行くであろうが、この際に日本人の「こころ」を外国人にいかに向けるべくか、と云う点は重大な意義をもつものである。最近の我国を見るに、道義の退廃はその極限に達した感がある。我々はこの千載一遇のオリピック大会に際して、全仏教徒に働きかけて「ありがとう」「おかげさまで」の言葉が心の底から出るような運動を展開したいと説明、近代仏研の松井氏から、この大会のかけには建設工事に従事していた秋田県の労働者四百名が行方不明となったと云う事件が起り、家族は探すにすべなく、新興宗教に或は祈禱に頼っているとの報を聞くが、こうしたオリピックの華やかなカゲにこうした不幸な人々が居ることに、我々は関心を持つべきであると提言したが、結局、提案者の説明通り万場一致原案通り採択された。

第二十号 全仏は沖繩仏教会の全仏参加を求め、宗教上の日本帰郷を実現させよ

全九州仏教会 横山 從生

沖繩の高校野球部にしても、沖繩市町村長、或はPTA代表にしても、日本における夫々の大会に

はこぞつて来日している。しかし全日本仏教徒大会には未だ代表の参加が見られないことはさみしい極みである。全仏当局はいかなる困難性ものりこえて、来年度大会からは是非沖繩代表を出席させるよう努められたいと説明、当局から必ずや要望通りこれを実現させたいと発言し、全員異議なく賛成決定した。

第三部会(仏婦部会)

この会は、他の部会とは趣きを異にし、毎年全日本仏教徒会議開催地でその前日、婦人大会として独自の立場で行うのが例になっておりますが、今年は地元の要請もあり、第十二回仏教徒会議の中で第十一回仏婦大会を第三部会として合流することに致しました。午前中本会議総会の行われました駿府会館の会場をそのまま午後一時より、全国婦人大会に切り替えましたので、会衆も約五千人が参加して非常に盛大な催しとなりました。

プログラム

- 一、開会の辞 常任理事 山口貴美子
一、講 演 文学博士 増谷文雄先生「生活の中の仏教」
一、主催者あいさつ
一、理事長 山本 杉
一、会長おこたば
一、副会長おこたば
一、副会長おこたば
一、来賓祝辞
全仏会長 高階彌仙禪師
静岡大会副委員長 高田嘉応師

- 祝電披露 岡野貴美子先生
本部報告 船口 暉子
事務局長 山本 杉
議長選出 西野 ます
副議長 関 東 平沼 とみ
議長 関 東 木全 かづ
" " 地 元 赤松 常子
助言者 加盟団体各地代表
一、発表 西大 阪友広 和
一、関 西 野藤井 静子
北 陸 福 井 白木 さく
関 東 神奈川 佐昭ミサホ
九州 福 岡 安武ふじの
一、協議 説明者
1 家庭のしつけ 全日仏婦 山本 杉
2 拝み合う家庭 静岡仏婦 須藤 和子
一、地元あいさつ 静岡仏婦会長 野上 幸
一、誓いのことば 全日尼僧法団 小島 賢道
理事 事 長
一、清 興 静岡県仏婦有志
舞踊 1 仏婦音頭
2 東京オリピック音頭
3 チャッキリ節
一、仏婦のうた 全員斉唱
一、閉会の辞 一郷美智代
静岡仏婦事務局長 以上

右の様な次第で、すべて大会形式によつてすすめられました。結局、提出された二つの議案については山本議長の簡単なまとめかあり、午前中の本会議といた午後後の増谷先生のお話といた、つまるところは、この二つに終始するといつてもいいでしょう。と吾々仏教婦人の責任の重大さを自覚することであり、この大会を意義づけることで結ばれました。

かくて地元仏教会及び仏婦全員の涙ぐましい程の努力と熱意が今日の大成功の実を挙げたことであつて、これこそ、拝みあうお互の心の通い合ったものと思われるのでした。なお午前中本会議で故ネール首相の御冥福を祈る黙禱のありましたのにつづいて、仏婦としても何かお花でもお供えしたいとの気持ちで献金されました。これは近日大使館へ持参してこの大会の名で霊前に捧げることになつて居ります。(全日仏婦事務局 船口暉子記)

第四部会(仏青部会)

日時 六月一日午後一時~五時
場所 県民会館三階ホール
議案 一五号、一四号



助言者 中村康隆、石橋洞竜、深田英雄、松永雄道、山田一真、西村輝成
参加者 一五〇名
十五年
青年より見た寺院のあり方についてその要望。
静岡仏青 杉山 旭
十四号
地域社会に於ける仏教青年のあり方。
全仏青 小室 祐充
十四号、十五号は全員にプリントが配布され一括審議された。
十四号については在家仏青より
1 地域の奉仕者として僧侶は相談相手になつて欲しい。
2 青年僧は積極的の青年運動にのり込んでいくべきだ。
僧侶仏青として仏青の育成方法
1 リーダーの育成と奉仕者を後絶の点を留意しなければ青年運動は永続しない。
2 寺を開放し環境を整備して幼児より青年へと道を開くべきだ。
3 信仰に筋金を入れて体当りで行動すべきだ。
以上審議され総括すると、
仏教青年会の催物に人が集まらない、先づ若いものが進んで自由に参加するよう、会をもり立てるのが先決問題である。また青年会を指導して行くリーダーが少くない。このような状況では会の運営仏教活動は困難である。もっと指導者を養成すべきであると述べた。
助言者の先生からは「仏教寺院は地方のカウンセリング(相談)活動をして、仏恩奉仕を根幹し地域福祉へと挺身すべきである」と

部会長 土方保道、木村義祐、久保田精順

助言された。

最後に議長よりまとめとして、「各仏教青年会の組織を確立し大同団結をし、積極的教化活動を実践しよう」との申し合せがあり終了した。

第五部会（檀信徒部会）

第五部会は地元静岡岡県仏教会が仏教会のデモストレーション僧俗一体の試金石として本年特に組織編成したもので、県仏の自主的活気の運営は本大会に於ける最大の収獲であった。

日時 一日後一時～五時
場所 公会堂
講題 四
部会長 山田顕達、鶴見密禪、高田嘉広、笹津海栄、倉内松堂、小塩孫八、若山運法、遠藤日護、堀田良謙、田中亮三、新村季道、岩上寛二、友田達明、遠山弘文

参加者 五〇〇名

(一) 寺院の護持とその経営 友松円諦

寺院は私有物でなく三宝物として護持し、開放的であり公開的でなければならぬ。また僧侶は法を施し、仏教的指導を与える所である。その方法は各々考える必要がある。

(質問) 現在寺はあまりにも観光化され、本来の教義が第二義的になっていくが如何か。

(答) 寺院が観光に利用されていることも無意義でもない。観光に来た人々に教義のパンフレット等を与え、更に青少年に寺との縁を結ばせる機縁になることもあ

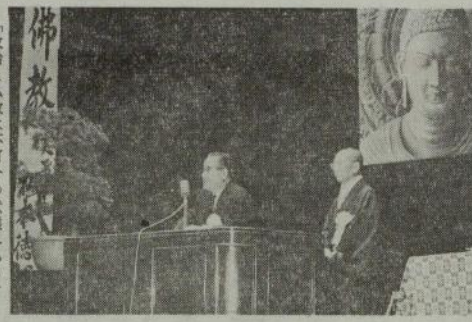
る。

(質問) われわれが寺を使用したいという頼みにも寺が仲々応じないが。

(答) 檀家の方々は寺を一方的に解釈してはならない。どの寺も檀家に貸したいと思っている。それには檀家総代とよく話し合う必要がある。

(二) 政治と仏教 松本徳明

文化国家に於いては政治と宗教は不可分の状態にある。外国では日常生活にキリスト教が浸透し社



「政治と仏教は不可分の状態にある」と語る檀信徒部会講師松本徳明先生

会事業の中心に講ずる教会が活動している。だから国家から手厚い保護を受けている。

また日本の宗教教育に関しては憲法改正の必要がある。

(質問) 現在幼稚園、保育園の法人問題はどうか。

(答) 文部省の役人は宗教教育は必要というが全く逆のようであ

(質問) 徳川幕府から現在の寺は葬式仏教に落入っている。寺は国家より外的には保護を受けていたようだが、内面的には圧迫を受けていた。もし国より保護を受けるようになれば、また排仏毀釈になりはしないか。

(答) 本当に人間生活に根を下して生きているならば国も保護をするだろうが、それをあてにしてはならない。

(三) 新興宗教について 石川 存静

まず既成教団の強い反省とともに時代感覚が薄いこと改める。

①に過去に於ては説法、開法と僧侶は云うが仏教活動の体勢、整備に怠慢であった。

②現在の仏教は家庭の宗教、個人の宗教が社会問題になっているのに時代の立場に立って解決していかない。

③青年、知識層に対する働きかけが怠慢である。

として、新興宗教に対する対策

(イ) 寺院と檀信徒との関係を、信仰中心にした結びつきをもってゆく事。

(ロ) 既成教団の組織替えも必要。

(ハ) 新聞、パンフレット等のマスコミの効果的利用をする。

(ニ) 寺、檀家が深い反省に立って新しく何かをしなければならぬ

という具体策を上げた。

(質問) 私は新興宗教に脅威を感じている。日本仏教は大団結して一つにしていってらどうか。

(質問) 新興宗教は既成教団が育て救う必要があるが如何か。
(答) 全仏もいつの日か新興宗教を含め拡大されなければならぬ。
(四) 檀信徒の信仰の持ち方 久保田正文
新興宗教の起つたのは人間に欲求があったから人間運命は自分自身によって決定するものである。自ら道を開き自ら説いている人は釈尊より他はない。
われわれは戒律の精神だけは受けつがなくてはならない。またわれわれは仏になることが最高の目標である。それには家庭、職場に於いて功德を積ませて頂くという気持が必要である。
以上をもって五時に無事終了した。今回テストケースとして編成された檀信徒部会は非常に好評であり全仏会議にはかくべからざるものとなった。

各議案の具現化 全仏四局で担当

なお全仏では第一、第二部会で採択を見た各議題の具現化について過日局内会議を行ない、総務、組織、国際、文化の四局で次のとおり担当することに決定した。

第一部会採択議案

- ◎総務局担当
第九号(文化局と共同)
第二十二号(組織局と共同)
◎組織局担当
第二号、第六号、第八号、第二十一号、第二十二号(総務局と共同)
◎国際局担当
なし

- ◎文化局担当
第一号、第九号(総務局と共同)、第十一号、第十六号、第二十三号

第二部会採択議案

- ◎総務局担当
第三号(国際局と共同)、第十号(組織局と共同)
◎組織局担当
第二十号(総務局と共同)、第二十号(国際局と共同)
◎国際局担当
第三号、第四号、第五号、第十七号、第十九号、第二十号
◎文化局担当
第十八号 以上

静岡県仏教会に対する

感謝決議文

今回第十二回全日本仏教徒会議が開催されるに当り、静岡岡県仏教会はその全力を挙げて万般に亘り本大会運営のため御奉仕を賜り、加えて県下寺院、婦人部、檀信徒の未曾有ともいうべき大動員の實を果たされ、貴会をあげて終始心からなる御款待を頂き、参加者一同衷心より感謝致す次第でございます。

ここに参加者一同を代表して静岡岡県仏教会の今後の御隆昌を念じ、本大会の名に於いて感謝の意を表する次第でございます。
昭和三十三年六月二日
第十二回全日本仏教徒会議
参加者代表

今度の静岡大会の参加者は同音にその成功を賞し地元に対しては感謝決議まで頂戴し無我夢中に大会一途に万事を休息し邁進した関係者はその重責を果した喜びに五ヶ月間の疲れが一度にスッ飛び「よかったよかった」と感激し次次第であります。

第十一回福岡大会にて次期開催地が静岡と決定してよりこの度、県仏会長の任期満了に伴う改選人事に遇い、その出発が少々遅れたその開催地元市仏教会が踏切つたのは年も改り昭和三十九年一月の末の事でした。大綱の計画立案を市仏教会、総会に上程したところ会場予定の市公会堂(収容力一、五〇〇)案がまっ先に反対されわれわれ静岡が開く上は県下第一の会場である駿府会館(収容力五、五〇〇)説が全員の意見となり当局は狼狽した。なぜならば県下第一の大会場を使用するとはいいながらも如何にして五、〇〇〇人からの人的動員を計るか経費はさて置

きせんせん見通しを持ち得なかつた。急ぎ再度計画案を検討しその中心として終始参画したのは会長副会長、市仏当番宗の理事三人に県市仏教会、会計、外に二、三の若手を合せて十名に足りない組織局を造り、いく度か暁の会合を繰り返して何しても例年各地の大会に多数の参加者を送りはしているもの大会当日の表面的観察に過ぎず一人としてやがて来たるべき開催地の下準備として視察を考えた者もなく従って大会の大きさ配役等五里霧中、夜盲の象をなすに似た堂々巡り一向に前進しない。一方県仏慰霊祭、市仏花祭り等恒例行事があり「困った困った」の

一語のみ、誰一人として之が見通しを持った者もなかった。市仏総会のいく度かの開催県仏役員会いづもいづも当局の失態に対する痛棒ばかり、局員もまた各自坊の用務で歩調が揃わず期日は迫るばかり、それでも四月中に人的動員計画並びに予算の裏付けが終り次々に要項、趣旨書並びに宣伝文書の発行、あるいは各地域の会合に出席し懇請依頼等配役も一通り出たものの内局自体これらの方々に対する明確な指示も出せず、何分よろしくと低頭一辺倒、その内に東京全仏本部との連絡も密となり穴だらけの今迄のズサンな計画の補修一方、人的資源の仏教婦人会に対する叩頭九拜、押しの手で本腰

全仏静岡大会を顧みて

静岡大会事務局員 洞 嘘 生

に上廻る会員をどうするか、早朝一時間の受付時間にいかにして記念品袋を漏れなく渡すか、参加章に七分通りの入場があるか否。進行プログラムに盛り込まれた時間割通り進行するかどうか。それよりももっともと大事な事は天候の良否で如何とも致し難い問題でした。しかし打ち上げ花火の音も高々と晴天に恵まれ、力を湧かし大会の進行は一寸の遅延もなく計画通りに進行し、二日間に亘る大会の幕を閉じ得た事は役不足の不平等もなく只々静岡大会の名に於いて恥かしからぬ大会を心の中に皆が抱いて各々の部署に甘じ最善の努力を惜しまなかつた県下二、

を入れたのが五月に入ってからのこと、局員は事務局に毎日午前九時出勤し手当り次第に広げた風呂敷のしめ方に飛び廻り渉外、寄附特請、印刷、連絡に忙殺され時には殺気立って来訪者とおわや一波乱かと事務局長を慌てさせ「局員爾後事務一切お断わり令」まで布告されて疲労が増すばかり、この頃より陣中見舞が次々贈られ一杯の美酒に更に明日への精力を燃やし立て、全仏組織局員の静岡乗り込みの三十日迄には一切の仕事を整理し得た。

参加人員八、一二〇人の動員可能と決定し朗報入りますもの、さてまた新たに悩す問題として収容力五、五〇〇人に比べて大市

第十二回静岡大会の特色は、
(一) 従来は何れかの大宗門の後押しがあつて行われたのに今回は単一県仏教会の主催で行われたこと。

(二) 今迄になかつた地元の要望で持たれた第五部会の権信徒部会でありました。その権信徒部会は二日目総会の席上に於いて全仏会議と之が云えるか否の質問が出されましたが今後の本大会の新しい方向を指示する意味に於いて一石を投じたものと自認してあります。そもそもこの大会は開催される地元は何を残すだろうか。数百万の浄財を投じて聞き得た後に何んの仏種を播いたか過去十一回の反省より生れた強い強い要望であり願望でありました各界各層からの寄捨を願ひ一部の人の独りよがりになり終らせたくない大会が私達の身近にあって親しみを全つて会合でありたいと一念から全仏当局の容認となり開かれました。

指導講演につく質疑討論これこそ仏教徒会議であり俗を除いた会議は大半の意義を失うという観点よりなるものではたせるかな第一日、第二日共会場は満員の盛況で一つの野次も争論もなく真剣な会議に終つた事は自負してあります。
(三) 婦人会は之れ又婦人部大会を以て之に代えた。この間に見た婦人部の組織の充実と婦人部の力の結果を見せつけられ討議上のスペリてなく論議の空廻りもなく家庭の主婦として特に仏教徒婦人の在り方心構え引いては人造りの根底をなす家庭内の躰の問題、身につまされた「おがみ合う家庭」について痛切な急眉な問題を控えての大会は実に感銘深かつた。

第十二回全日本仏教徒会議 静岡大会宣言決議文

宣 言

今や世界の人類は力の抗争から脱却して、共存共栄と文化の向上にその方途を見出さんとしつつあるといえども、世界の各拠点にはまだ烽火の絶えざるをみることは誠に遺憾に堪えざるところである。

ここに第十二回全日本仏教徒会議静岡大会を開くにあたり、仏陀の大慈大願のもと、全仏教徒の総力を結集し、和衷協力、人類救済の大使命に徹底し、理想社会の具現に精進することを宣言す。

(決議)

- 1 われら全日本仏教徒は大聖釈尊の教を奉じ平和の將來と人類福祉の実現に邁進することを期す。
 - 2 われら全日本仏教徒は世界の仏教徒と提携し、政治経済、文化の向上発展に貢献せんことを期す。
 - 3 われら全日本仏教徒は僧俗一体となって信仰の灯を燃やし、その団結を固め、健全なる社会育成の礎石たらんことを期す。
 - 4 われら全日本仏教徒は世紀の祭典たるオリンピック東京大会の成功を祈り一億国民の道義の昂揚を期す。
- 昭和三十九年六月二日
第十二回全日本仏教徒会議
静岡大会

全仏静岡大会を省みて
静岡県仏教会長 松村寿顕

全仏の指示宜しきを得、且又全国の皆様の御協力に依り一応今回の静岡大会は成功したが、而してこれは表面上のことであって、今後決議された事が実践されてこそその成功と云えると思う。



松村 会長

出来るかどうか、唯大勢の人を集めるだけでなく、内容のある、また今後の全一仏教運動に役立つものである様に念願したのである。それには先ず人の和が大切であり、企画、運営、連絡等仲々大変なことであった。

県下二千七百ヶ寺及び檀信徒並びに婦人会が異体同心、此の大会を盛り上げた事にその意義があったと思う。

静岡県仏として提案した「今後の仏教徒会議は如何にあるべきか」(友田達明師説明)が全面的に当局から賛意があり、満場一致採択の決定をみた事は、今後の大会により発展の曙光を見出し、何物にもかへがたい嬉しさである。

なお、檀信徒部会は今回始めて設けられた部会であるが、静岡県仏が提案し、全仏より委任せられた部会であるため、吾々は全精力をこの部会に注いだ訳である。当代一流の講師先生方をお招待しての部会、果して沈滞か活潑か

又信徒に与える影響、その後における檀信徒の寺院への考え方、信仰への関心、新興宗教への批評、批判等々。

私の取材の範囲では、これらに關しては、一段と関心が深まった事を示し、先ず成功であったと云い得る。しかし出来得るならば、事前に寺院住職において、檀信徒に教育の後にこの部会を持つ方がより効果的であったと思う。

今、テープレコーダーを聞きながら、檀信徒の身になり、もっと聞きたい点が沢山あったのではないかと思っている。また時間あまりにも短く感ぜられたのと、立正佼正会の会員が一五〇人しか参加出来なかつたのが、甚だ残念であった。最後に全国からの参会者に対し、大会事務局や私共に対し多数の礼状が寄せられました事を、心から嬉しく、紙上をかりまして厚く御礼申し上げます。

落 穂 記

静岡大会事務局員

①本大会に参加の県外申込については申込締切日が明示されているにも拘らず送金も確定人員もなく、取り消し等係員の甚大な事務支障を来した事は止むを得ないとして、仏教徒の名に於いて人に迷惑をかけることは追放したいものである。

② 受入当局の指示に従わず勝手に宿舎を替え、金を払ってあるから便宜を与えろと身勝手な横車は仏道の直線コースから脱線の恐れがあります。

③ 大会司会者の終始変らぬ徹底した言葉使い、明確にして簡明

会場を庄するよどみない態度、声量、体格非の打ちどころのない司会者、ただ若禿のオデコは玉にキズ、天は全仏を与えずとやら。

④ 全仏会長付局に挨拶に上京しての茶話に「そんな人が集まったら小用に困ろうが」とは流石に授戒会馴れの大役者、細い心使いに感服したが、第二日閉会式開幕直前にベルを入れたとんに会長用達に行かれ、仲々もどってこない。開幕のスウィッチを押したくとも押されず、間の悪さに気がもめること。

後でわかつたことは御自分がお年のため小用に近いとはね。

⑤ 大会解散前に次期十三回開催の件を地元代表で一席ずつ用意をしていたら全仏当局から待つてくれとのこと中止したが、その理由は何か? こんな静岡みないな大会は全国どこにも受け手がないので、もし発言したら、收拾つかずとみてのことか? それ程静岡大会がよかつたとは私のうぬほれかしら。

⑥ 終始事務局員を元気づけたのは地元大寺の娘さんで、お茶を汲んで貰うのが楽しくてね、新茶の濃いのを腹一杯、おかげで眠気覚して仕事がかどって有難かつた。

第二回

大阪仏教会議開催

大阪府仏教会(会長間野敬重師)では、一昨年大阪で開催された第十回全日本仏教会議大阪大会を機会として昨年第一回、今年五月二十七日第二回仏教会議を開催した。約三百名の仏教徒が集り、活潑な討議が行なわれた。なお、

花園大学々長山田無文師が「道徳教育について」講演された。

東洋大の伊東君

東南アジアの旅へ

東京文京区原町の東洋大学で仏教学を学んでいる一学生が、東南アジアにおける小乗仏教のメッカタイとカンボジアへ近々渡航することになり、過日全仏を訪れ、渡航の挨拶と現地仏教徒への便宜供与の依頼をした。

この学生は現在同大学一年在学中で、特に仏教学を西義雄教授について学んでいる在学出身の人で伊東照司君と云う熱心な青年である。

同君は七月三日横浜港発のノルヂアン・アジアラインの客船で一路バンコックへ向かう。全仏国際局では同君の前途を祝って饗別をおくると共に、国際局と連絡をとるべく、早速、WF B世界本部会長ブリン妃殿下、ソムフォーン仏青会長、WF Bカンボジアセンター、駐タイ、カンボジア日本大使等に便宜供与方の依頼状を送った。なお同君は八月下旬に帰国する。

南米バリリスタ訪問に報道

曹洞宗のブラジル活動

ブラジル仏教の現状については今春来日した、辻本昇氏や、先般来信のあった在サンパウロ市曹洞宗開教総監新宮良範師からしばしばのべられているが、このほどブラジルのパウリスタ新聞紙上に、「人氣集る仏教講義」と云う大きな見出しで、次のような記事がのこった。即ち、

に「仏教」に対する関心がたかまつているようで、曹洞禅宗南米別院(新宮良範総監)には、三月頃から各学校の生徒が集団で講義をききに來ている。

今までにマッケンジー大学生の四十人をはじめ、サンパウロ大附属高校生二十人、私立中学生九十人(二校)等が、いずれも教師の引率で訪れているが、今後の申込も、パウリスタノノ中学、ルーズベルト高校など引きもきらないと云う。

なお別院では「仏教の起源」「仏教の歴史」「仏教の哲学概論」などを解説するほか、スライドなどもみせると云うが、これが動機になって参禅にきたり、参考文献を探しに來る学生も多いと云う。

日本仏教宣揚に活躍する

仏教徒文化交流協会

本会加盟団体である、仏教徒文化交流協会(小谷徳水理事長)は仏教を通じて欧米、東南アジア各国との主として日本仏教々々紹介や、仏教系大学IBIとの提携、仏教英語会話講習の開催等、多彩な活躍をしているが今度倉田百三著「親鸞」を英訳出版した。約二百五十頁に亘るもので、先般東京の国会図書館より、在米国会図書館を通じ、全米図書館へ送られたが、また東西両ドイツ、フランス、オーストリア、スエーデンなど欧州各国へも送られている

全仏が印度仏跡巡拝も計画

印度の 第七回WFB大会 ダルマパーラ記念祭 派遣

日本仏教代表団を募集

昨年開催が予定されていた、第七回世界仏教徒会議は、世界仏教徒連盟(WFB)前会長ウチャントン氏の退任、南ベトナムにおける革命などの事件が相つぎ発生したため延々となっていた。

WFB現会長ブーン・Pデイス



(釈尊開悟の地ブダガヤの大塔)

クル妃殿下(タイ国仏教会副会長)は、新たに昨年末就任したが就任当時から本件の実現について苦慮していたが、このほど本年十一月下旬に印度のサルナートかブダガヤで第七回大会を持つことに内定を見た。

この内報は印度大菩提会事務総長ヴァリシンハ氏の私信によって明らかにされたが、それによると本年十一月二十九日から十二月四日に亘って、印度ヴェナレス近郊のサルナート(鹿野苑)か、ブダガヤ(開悟の地)で開催すると云うもので、ヴァリシンハ氏とし



サルナートのダメーク仏塔

ては、本年は特にダルマパーラ生誕百年記念祭の聖なる年にあたるので、大会の始まる前日、即ち十一月二十八日にカルカッタでこの記念式典を開催したいとの由である。

。ところが、首相ネル氏の突然の死と云う突発事件がおこりネル氏が本大会のパトロンとなっていたところから、本大会が確実に印度で開催されるかどうか、目下のところはっきりとしていないようである。

いすれにしても全仏としては、印度へダルマパーラ記念式典参加を目的とする仏跡巡拝使節をその時期に派遣することに決定してお

り、左記の要領により参加希望者を募集している。なお同国際局では、推せん書の用紙がほしい人は同局へ申請されたいと云っている。

一、期間 十一月中旬乃至下旬より約一ヶ月間

一、目的 第七回世界仏教徒会議及びダルマパーラ生誕百年記念式典参加旁々印度仏跡巡拝。

一、参加資格 全仏加盟各宗、県仏、団体長の推せんによるもので、真に仏教徒たるに足る方。

一、参加人員 三十名程度。

一、参加申込期限 八月三十一日までに全仏国際局へ履歴書二通及び推せん書一通を添えて申込むこと。

一、費用概算 五十五万程度。

一、日程(予定)

十一月二十四日(火)十二時三十分羽田発A1機で出発
同日十九時四十分カルカッタ着。カルカッタ泊。

二十五日(水)印度大菩提会本部訪問。市内視察
カルカッタ泊。

二十六日(木)カルカッタ発午前七時十分の印度航空機にてパトナへ。
パトナ着後バスでブダガヤへ。王舎城、靈鷲山等参詣。ブダガヤ泊。

二十七日(金)早朝ブダガヤ大塔参拝後、バスでナラランダ大学跡等視察。

二十八日(土)パトナ発列

十二月 四日(金)

五日(土)午前中列車でアグラ着。ターチマハール・アグラ城跡等視察。アグラ泊。

六日(日)午前中アグラ発IC機にてデリーへ。市内視察後、日本大使館を訪問。デリー泊。

七日(月)午前中市内視察午後自由時間。デリー泊

八日(火)デリー発IC機にてボンベイへ。ボンベイ市内視察。ボンベイ泊。

九日(水)午後ボンベイ発の機にてオーランガバードへ。オーランガバード着。

十日(木)午前午後エロラ、アチャンタ大洞窟寺院視察。オーランガバード泊。

十一日(木)オーランガバード発の機にてボンベイへもどる。午後の飛行機にてコロンボへ。コロンボ泊。

十二日(金)コロンボ市内有名寺院、WFBセイトンセンター等訪問。コロンボ泊。

十三日(土)バスにてキヤンデー市へ。仏齒

車でベナレスへ。ベナレス鹿野苑等視察参拝。ベナレス泊。

十五日(月)シンガポール市内視察。WFBセイトン訪問。シンガポール泊。

十六日(火)午前中シンガポール発でブノンペンへ。同所経由でバンコックへ。ワットベンチャマボビット寺、WFB本部訪問。バンコック泊。

十七日(水)市内各寺院参拝。午後自由時間。バンコック泊。

十八日(木)バンコック発飛行機にてブノンペン経由でサイゴンへ。サロイ寺院訪問。サイゴン泊。

十九日(金)午前中自由時間。午後飛行機で香港へ。香港泊。

二十日(土)午前中香港島。午後九竜視察。香港泊。

二十一日(日)午前中飛行機にて台北へ。中国仏教会訪問。台北泊。

二十二日(月)午前中自由時間。午後の飛行機にて東京へ。

なお、全仏では参加希望者を募集しているの、推せん書用紙が必要の向きは、全仏国際局へ御申出て下さい。(全仏国際局)

寺等参拝後バスでコロンボへ帰り同市で宿泊

十四日(日)コロンボ発にてシンガポールへ向う。シンガポール泊。

寺院共済組合

第九は、昭和三十年に創立された寺院共済組合である。これは、東京都仏教団の共済会を、まねてそのとおりの規約で、結成したものであるが、東京同様、順調にのびて、組合寺院の罹災に対する見舞金も、七カ寺へ、一六二万円を支払っている。

去る四月四日の定期総会に発表された三十八年度の決算をみると
組合加入寺院数 六九九寺
組合加入人口数 一、一二四〇
収入金額 九、一三八、四七四円
支出金額 一、八二九、〇七〇円
差引残額 七、三〇九、四〇四円
となっており、よい成績である。

県 仏 の 素 描 (下)

埼玉県仏の場合

この共済制度は、ご承知の方もおうかるが、五千円の出資金を一回だけ、だしておけば、万が一火災にかかった時、百倍の五十万円のみま金も、もらえる仕組みである。

第十は、仏教徒歳末たすけあい運動である。三十二年以来、仏教徒募金を毎年おこなって、あつまった浄財を、毎年、十五万円ぐらゐ、県内の養老院・母子寮・保育所などの気の毒な人々に、おくと喜ばれている。

墓地対策

第十一は、墓地問題である。創価学会対寺院墓地の紛争事件については、早くから県仏として、し

ばしば研究会をもち、対策をねたが、名案もつかばず、結局は、学会を相手にせず、寺檀の組織化(護持会)、教化の活発化こそが根本的解決策として、内省的な自重方法が、とられていた。

しかし本庄市の寺院が、訴訟に立上るや、すぐさま学県一致して裁判募金を開始、十万円の金をおくって激励した。その後も公判ごとに、県仏職員が裁判所にむいて精神的な支援を与えている。

こうした寺院関係で、問題があれば、時を移さず、県仏組織の総力をあげて、有効適切な方法を講ずる土台が、つねに用意されているというところは、何にもまして心強い限りであり、頼もしい限りである。

熱意をもちやして奉仕し仏教興隆のハタジルシをかかげて先頭にたつ気概がなくては、かなわない訳である。そこに県仏組織の困難性と脆弱性がみられる。

全一的仏教

埼玉県は、真言宗智山派・豊山派・曹洞宗の三宗派の寺院が、それぞれ四、五百カ寺あてあって、うまく鼎立しており、協力しやすいい条件が、そろっておるといってよい。勢力分野が一派に、かたよっている府県では、なかなか、県仏は育たない。

全一仏教とか、全一的仏教とかとはいっても、寺院そのものが

もっている社会的機能が、弱まっております。経済的基盤も低いから、世間一般の団体の活動に、くらべると、お話しにもならない影の薄い存在でしかない。

したがって、どうしても、心あるものが、いろいろ理屈はつけられても、所詮、日本の仏教は宗派仏教であることを、精魂を傾けている人のあることを、きくが、まことに現代の菩薩行として、心から合掌せずにはおれない。埼玉県仏教会の一端を紹介して何かの御参考になればと、念じながら、貧しいペンをおく。

仏書贈呈の先陣帰る

さる六月十日に出発したデンマーク仏書贈呈親善使節団の三氏(平林豊山派宗務総長、阿部全仏総務局長、岩本同組織部長)は仏書贈呈の大役をはたし、七月五日羽田に帰着した。贈呈式は六月十五日コペンハーゲン大学に於いて保坂団長の使節団、関係者、報道陣のつめかけたなかで大学総長に千五百冊の仏書目録が手渡され非常に盛会であった。

今回成功裡に幕をとした理由を岩本組織部長は「(一)に使節団とデンマーク聖書協会との人達と公私にわたって、はだの話し合いが出来たこと、(二)にモスコに於いては今後日本仏教会と当地との宗教委員会と取付ができたこと、(三)にローマのバチカン法王と謁見し、とくにバチカン内部では最近キリスト教以外の宗教と交渉をもつ運動が起りつつあり、今後の東西文化交流も頻繁になるであろう。」と語っていた。

在伯仏教連の新宮師から便り

高まる南米仏教の研究熱

謹啓
貴誌益々御隆昌大慶に存じ上げます。
平素は御無音に打ち過ぎ失礼の段お許し下さい。
ブラジルの仏教は、或は、日本移民一世連の郷愁的存在に止るかぎらずやがて減退するであろう、という一部の冷評とは逆に、浸透拡大され、二世連はもとより、特に外人間には、先進国の仏教研究熱の影響を受けてか、仏教への関心は高まって来ています。

サンパウロ市の中心街にある、イギリス・フランス・ドイツ・スペイン系等の書店に足を止めると必ず仏教に関する書籍が目につきまます。其も単なる、仏伝とか、教理概説などはかりでなく、涅槃経・仏所行贊とか、中論、大智度論等まで並んでいて、研究の進度を示しています。イギリスのハンフリーズ氏の著書は多く、近来は、簡単なものですが同氏の鑑修になる仏教辞典も取り寄せられて売られています。フランス語のサンスクリット辞典も市販されています。サンスクリットは日本では修学生が少いと聞いていますがこちらではそのような学問まで抬頭しかかっているのです。このような傾向の無いのは一抹の淋しさです。

また、ブラジル語の仏教関係の書籍も出始めています。以前は、多くは、神秘主義者の手で出版され「秘傳伝」「亜西亞の光(アー

ノルド)」「世界の仏教」等余程読まれています。此等は何かこう、仏教を神秘のベールに包み込んだ在り方でありました。そのうちに「発句経」が出版され、次いで、鈴木大拙博士の「禪入門」が英語版から翻訳され、正統派とも言うべきものが現れはじめました。「禪入門」は大学生を始め智識層が好んで読み、常に売り切れで版を重ねているようです。よろこばしいことと存じます。

さて、ブラジルの仏教研究熱は寺院が、校外指導の移動教室の場となる程になりました。私の所で直接指導に当るのは、私の弟子で、ブラジル人唯一の仏教僧侶(日本より伝来せる仏教の)である——ゴンサルベス・良侃和尚——です。彼は現在、サンパウロ大学四年在学中ですが、学校当局から抜擢されて歴史学科の助手として活動しています。

今回はこれで失礼いたします。兎にも角にも、ブラジルに仏教が育ちつつあることを、悦びをもってお知らせ出来ることを嬉しく思います。

貴誌の御発展と皆様の御健康をお祈りいたします。

合掌頓首
昭和三十九年五月二十九日
曹洞宗南米開教総監
在伯仏教各宗連合会幹事
新宮 良 範
全日本仏教会殿

全仏オリソニック対策 日本仏教紹介書出版きめる

ヤングイースト社の協力

全仏オリソニック対策協議会では五月二十九日午後一時から、東京築地本願寺会議室にて第二回委員会を開催し左の議題について審議した。

議 題

- 一、礼拝寺院設置の件
当局より、選手村に近く且つ交通の便が良く、その上施設が完備している点で、曹洞宗長泉寺(柴田秀晃住職)を指定したいと計り全員異議なく賛成決定した。なお同寺住職の柴田秀晃委員より、出来るかぎりの協力をしたいと挨拶があった。
- 二、日本仏教紹介英文仏教書の件
当局より、増永靈鳳委員が病氣のため執筆を辞退して来たので、そのため、ヤングイースト社の協力を得てこれを出版したいとのべ種々意見の開陳があったが、結局ヤングイースト社の方で編集を担当し、同社で出版予定の「秋季号」を廃して、それに代えて「全

仏オリソニック特集号」を出版することに意見の一致を見た。

三、道義昂揚運動展開の件

当局より、この件に関して、全仏は目下文部省の公衆道徳昂揚運動推進連絡本部に参画している旨その経過をのべ、藤原俊委員執筆による資料を配布し、これにもとづいて本運動を盛り上げるための資料を作成して加盟各宗派等に送付したいとのべた。各委員より有意義な意見がのべられたが、具体的に内容をほりさげて検討して資料を作り、速かに加盟宗派等へ送付することに決まった。

四、その他の事項について

- ① 小委員会の設定の件
各議題の具現化のために委員を夫々小委員会に分けること。事務当局が立案することに決定。
- ② 通訳陣のリストの作製。
観光寺院青年僧の英語教育をする。

地震お見舞

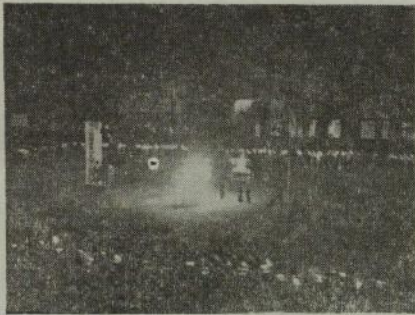
過般突如東日本一帯を襲つた「新潟地震」は、関東大地震に次ぐ強大なもので、特に新潟県においては多大の災害をこうむられた中、衷心より御見舞申上げます。とりわけ寺院教会、檀信徒の被害は甚大の由であります。被害の僅少なことを祈念し、一刻も早く復旧されんことを念じてやみません。

財団法人 全日本仏教会

④ 主として関西方面寺院に対する便宜供与方の依頼。
⑤ 選手歓迎パーティの開催。以上の諸点についての意見、要望等がなされ、午後三時三十分頃閉会した。出席委員は、村野宣忠、井上真六、五島行宣、小谷淡雲、有村満雄、神野真一、船口輝子、摩民清之、能登有兆、藤井真水、栗本俊道、古坂明詮、真溪義貫、柴田秀晃の各委員、全仏当局から中山国際局長、柳田部長、岩本組織部長、小瀬川、古宇田、鎌田主事。(順不同敬称略)

ウエサーカ祭

聖和学園仏教青年会(会長金山竜重師)では、先般仙台市の同学園で盛大に、ウエサーカの夕べを開催したが、このほど全仏へ祝電に対するお礼をかねて、当夜の写真を送つて来た。



ウエサーカ仏陀祭の夕べで聖火行進する聖和仏青

デンマーク便り コペンハーゲン大学で 盛大な仏書贈呈式

謹啓、前略。

出発にあたり、盛大なお見送り頂き感謝いたしております。出発は機の整備があり予定より大変遅れて十一時五十分。夜食が十二時半。それから眠ったのですが、四時には明るいの目がさめたような次第です。一時半頃に夜が明けたそうです。これからアラスカへ向い五十分休憩をとる予定です。ではいづれま

機上にて

敬具
別所生

謹啓、前略。

出発にあたり何かと御世話になりました。脚を捻坐した鮎合氏のみ事故者で、一同全く元気ですが、強行日程で手紙を書くヒマもなく、これには閉口させられています。荷物の重いにも困っています。於コペンハーゲン岩本生

前略。

六月十五日午後五時コペンハーゲン大学で仏書贈呈式を無事終了し、使節団事務局としては一安堵しました。式典は非常に盛大なもので大学側も感激しておりました。

六月十五日

全仏事務局御中

麻布 照海
阿部 竜伝
於コペンハーゲン

新潟地震緊急対策ねる 全仏積極的援助にのり出す

全仏では、「新潟地震対策」を六月二十二日に在京各種団体代表者を招いて緊急協議し、次の諸点を申合せた。即ち①全仏を代表して、六月二十二日に黒田組織局長が、新潟、山形、秋田三県を慰問する。その際、新潟県に六万、山形、秋田両県に各二万円計十万円を見舞金として持参する。②全仏慰問金品第一回受付は六月二十六日迄とし、第二回受付は八月三十一日迄とする。③全仏に寄託された慰問金品には夫々、全仏加盟宗派、団体名を付記する。④慰問品は慰問使が各県仏会長と打合せの上、罹災三県知事に手交する。⑤各宗派、県仏、団体等の救援活動報告は逐一「全仏通信」に発表する。

出席者は、孝道教団事務長椎谷健氏、時宗福田師、豊山派吉田俊蒼師全日仏婦船口輝子氏、西沢はる氏、全日仏青山田一真氏、仏教同広瀬健一氏、東京仏教団神野真一師。当局は黒田局長、柳、伊東部長、小瀬川、鎌田主事。

あとがき

△全仏では緊急に「新潟地震」に対して緊急対策を協議。救援物資続々集まる。近く黒田組織局長が現地慰問に出発。
△本信は静岡大会特集号として編集した。九千名の総意が実ること期待したい。
△北海道講習会まであとわずか。六月三十日には全員札幌へ出張。

(K生)